

35 静緑地環境保全地域



1 地域指定

- (1) 指定地域 静神社周辺一帯（瓜連町）
- (2) 指 定 昭和61年3月31日（茨城県告示第510号）

2 保全計画の概要

(1) 指定理由

本地域は、瓜連町西方部、桂村、常北町に通ずる県道の北側に存する静神社を中心とするまとまった森林である。

境内には、樹齢300年以上と推定される学術的に貴重なスギの大径木を主にシラカシ、サカキ、クスノキ、ヤブツバキ、ケヤキ、ムクノキなどの暖地性等の樹木が混生している。

また、林内には近年数が減少しているアオスジアゲハやモンキアゲハ等のチョウ類やムササビが生息する等、集落内において良好な自然環境を形成している。

このように、本地域は茨城県自然環境保全条例第10条第1項第1号に規定する「樹木地が集落地と一体となって良好な自然環境を形成している区域」に該当する。

(2) 自然環境の概要

ア 植 生

神社境内にはスギの大径木を主にシラカシ、ヤブツバキ、ヒサカキ、サカキ、クスノキ、ムクノキ、ケヤキ等が高木、亜高木として混生し、林床にはヤブコウジ、テイカカズラ、ベニシダ等

が生育しており、これらは本地域や周辺の潜在植生を示すものと考えられ、県北地方においては、希少価値のある森林として位置付けられる。

特にムクノキは、県南地方には普通に見られるが、県北地域では水戸市、桂村、瓜連町静だけで、本地域がムクノキの北限と考えられる。

イ 野生動物

常緑樹を好むアオスジアゲハ、モンキアゲハのほかに関東以西に分布域をもつチャバネセセリ、ウラギンシジミ等のチョウ類、近くに湿地があるので移動性の少ないナツアカネ、山地と平野部を移動するアキアカネ等のトンボ類が多数生息している。

また、近年少なくなっているムササビやリスが生息しており、野鳥類もアオバズク、サンショウクイをはじめ人里によく見られるオナガ、カケス、ツグミ、ムクドリ等が見られる。

(3) 区 域

ア 区域の概要

本地域は、瓜連町西方にある静神社を中心とする森林地域で静集落内にある。

イ 位置及び区域

那珂郡瓜連町大字静の一部

別図のとおり

ウ 面 積 7.40ヘクタール

エ 土地所有関係

単位：ヘクタール

国 有 地	公 有 地	民 有 地	合 計
0	0	7.40	7.40

(面積は、台帳面積による。)

(4) 自然環境の保全に関する基本的な事項

本地域は、静神社を中心としてスギの大径木、ムクノキ、ケヤキの落葉樹、サカキ、ヤブツバキ、シラカシ、クスノキの常緑樹が混生する森林に植物相も豊富に生育している。

また、チョウ、トンボ等昆虫類が数多く見られ、近年特に減少しているムササビが生息するほか、野鳥も多く見られる等良好な自然環境を形成しており、これらの動植物を維持するため、自然環境の保全を図る。

このため、保全に必要な規制は条例の定めにより行う。

(5) 保全施設に関する方針

巡視歩道、標識、廃棄物処理施設、植生復元施設、病虫害防除施設、給餌施設、養殖施設等を必要に応じて設ける。

静緑地環境保全地域位置図

S = $\frac{1}{50000}$



静绿地环境保全地域区域图

S = $\frac{1}{5000}$

